

第96回日本結核・非結核性抗酸菌症学会総会・学術講演会

第96回日本結核・非結核性抗酸菌症学会に参加して

複十字病院臨床医学研修部

臨床研究科長 森本 耕三

学会名が変更され2回目の総会（会長：東名古屋病院小川賢二先生）は、昨年に引き続き残念ながらオンラインでの開催となりました。移動時間はなく、ストリーミングが加わり便利な一面、学会独特の雰囲気は感じる事ができず、一日も早くコロナ禍が終息し、少なくともハイブリッド型へ落ち着くことを期待しています。

学会では、特別企画：我が国の肺NTM症の診断・治療に関する見解の改訂に向けてに於いて「肺 *M. abscessus complex* 症の治療」、シンポジウム：気管支拡張症で、「気管支拡張症の再興 ERSガイドラインと日本の現状」というタイトルで講演させて頂きました。さらに、シンポジウム：肺非結核性抗酸菌症：多角的アプローチから臨床的理解を深める、およびジョイントシンポジウム（抗酸菌研究会との共同企画）：知れば楽しくなる抗酸菌研究の最前線！の座長の役割があり、PC画面の前でドタバタとしていました。2020国際NTMガイドラインや、欧米の気管支拡張症分野の動向を受け、本学会の議論も活発化してきていると感じました。選ぶのが大変でしたが座長とし

て活躍中の若手研究者を紹介できたこと、瀬戸先生と抗酸菌研究会を本学会員の皆様に紹介し、多くの反響があったことはとても嬉しく思いました。本年は役割を沢山頂きましたので、しばらくは発表を視聴する時間を大切にしたいです。🍷

予防会から2名の研究者が優秀賞を受賞しています！

最優秀賞も複十字病院が主たる参加施設となった研究でした。

〈優秀賞〉

◆「肺 *Mycobacterium avium complex* 症治療終了時のリンパ球数減少は再発と関連する」

古内浩司（複十字病院呼吸器センター）

◆「ヒト結核モデルマウスを用いた潜在感染モデルの構築」

中村創（結核研究所）

〈最優秀賞〉

◆「肺MAC症のゲノムワイド関連解析」

南宮湖